

グローバル化に対応した人づくり

グローバル化について

今や政治経済のみならず、私たちの暮らしにもグローバル化が進み、未来を担う子どもたちの国際感覚育成は、待ったなしとされます。私は高校2年の夏に47日間アメリカへ行く機会を得ました。今から42年前ですが、その時の原体験が今の私の生き方を決めたと感じます。グローバル化に対応するためには、まず、異文化への敬意と受容が必要です。その地で暮らす人々の歴史や文化を知り、その暮らしに溶け込む勇気が大切です。

広島県教育委員会委員 佐藤 卓己

そして自分への誇りと、自分を説明する表現力です。そのためには、自分の育った地域の歴史や文化を語れる知識、自分の歴史を語る自信が大切です。どこの国の人でも、相手への敬意と自己への尊敬を大切にしています。それぞれの国旗・国歌を大切にすることも、互いの敬意と尊敬の表現です。以上は私個人の所感ですが、今から地球の中で生きていく子どもたちには、ぜひ多様な「好奇心」を持ち続けてほしいと願っています。



高校留学で異文化生活を体感

親元を離れ、海外で一般家庭にホームステイしながら現地の高校に通う高校生の留学。約1年間の留学中の履修を日本の高校での単位の修得として認める制度があります。約1年間、留学生として過ごした2人の体験談をご紹介します。



多様な価値観を認めるには自分らしくいることが大切

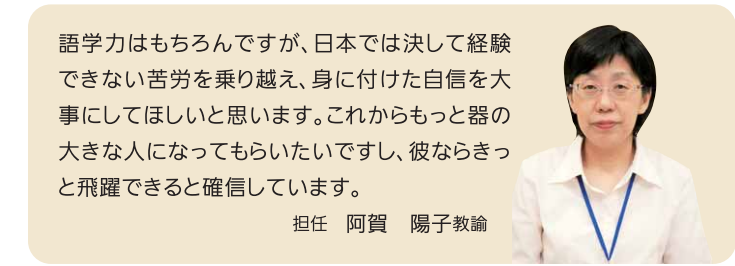
県立広島高等学校第3学年 甲斐 康輝さん 平成23年9月から24年7月まで留学



もともと英語が好きだったので、将来は語学力を生かした仕事に就きたいと思い、留学を決めました。フランスを選んだのは、せっかく留学するのなら新たな言語に挑戦したいと思ったからです。当初は「ボンジュール(こんにちは)」と「メルシー(ありがとう)」しか知らなかったのですが、言葉には本当に苦労しました。最初の1か月ほどは、言葉の問題から自分の殻に閉じこもってしまい、ホストファミリーとぎくしゃくすることもありました。でも言葉が分からないなりに、人の輪に入り、フランスの生活を楽しむ努力をしようとすると、ホストファミリーともクラスメートとも、少しずつ気持ちを通じ合うようになりました。日本ではあまり表に出せなかった「ダメな自分」と向き合うことができたことも、自分自身を大きく成長させてくれたと思います。グローバル社会において、自分が自分らしくいることはとても大切です。ありのままの自分を好きになることができると初めて、多様な価値観や文化を認められるのだと思います。今後はフランスの大学へ進学を目指します。



① クラスメートと記念の1枚
② 最も楽しかった思い出の一つがホストファミリーとのクリスマス
③ 語学力はもちろんですが、日本では決して経験できない苦労を乗り越え、身に付けた自信を大事にしてほしいと思います。これからもっと器の大きな人になってほしいです。彼ららしくと飛躍できると確信しています。



担任 阿賀 陽子教諭



① ミュージカルにプリンセス役で出演
② 現地の高校の卒業式
③ ホストファミリーと

ミュージカルにも出演し消極的だった性格が変化

安芸府中高等学校卒業 福島 麻梨絵さん 平成23年8月から24年6月まで留学

小学生の頃から習ってきた英語の語学力を試したいという思いから、アメリカ留学を希望しました。以前の私は、どちらかというと消極的で、初対面の人と話をすることも苦手でした。でも安芸府中高校に来ていた留学生から「コミュニケーションは積極的に」とアドバイスされていたので、ホストファミリーには、夕食時に必ずその日あったことを報告し、学校では、例えば目が合った人には自分から「Hello!」と声を掛けることなどを心掛けていました。学校のミュージカルや合唱にも参加し、ステージで歌ったり踊ったり、日本の高校にいた頃の私では考えられないような活動にも挑戦しました。帰国して日本の先生や友達から「すごく明るくなった」とか「声が大きくなった」と言われますし、私自身も変化を感じています。今回の留学は、日本の様式や文化がいかに繊細で美しいものなのかを見直すきっかけにもなり、語学としての日本語に興味を抱くようになりました。将来はアメリカで、日本語を教え、日本の文化を伝える仕事をしたいと思っています。



留学前は控えめな性格だったので、少し心配したこともありましたが、本人の強い意志と努力によって大きく成長した1年になりました。日本語教師という夢をかなえ、日本の魅力を世界中の人々に広めてくれるとうれしいです。担任をしていた 徳永 泰子教諭

海外との交流を推進しグローバルな人材を育成

国際的な視野や主体的に行動するコミュニケーション能力を持ったグローバルな人材を育成するため、県立学校と海外の学校との姉妹校提携の促進、生徒の留学支援や教員の海外派遣を実施しています。

姉妹校提携校数
9月末現在
●高等学校 34校
●特別支援学校 4校

シンガポールの特別支援学校と広島県立庄原特別支援学校が姉妹校提携

庄原特別支援学校は、7月4日・5日にシンガポールの特別支援学校(2校)と姉妹校提携を締結しました。9月25日・26日の2日間には、シンガポールから生徒と先生たちが庄原特別支援学校を初めて訪問し、さまざまな交流が行われました。初日の歓迎会では、庄原特別支援学校の生徒・教職員が歓迎の演奏・ダンスを行い、シンガポールの生徒からはダンスの披露がありました。田楽太鼓の実演や体験では大いに盛り上がり、和やかな雰囲気会の会となりました。その後は一緒に作業学習の授業に参加したり、備北丘陵公園でレクリエーション活動をしたり、運動部の活動に参加したりと、有意義で充実した2日間となりました。今後はインターネットを活用し、音声や映像によってリアルタイムでお互いがコミュニケーションを行うなど、継続的な交流を予定しています。



シンガポールの生徒たちと記念の1枚



田楽太鼓による歓迎の様子

異文化に触れられる交流空間を設置

子どもの身近な場所で日常的に異文化に直接触れる機会を提供することにより、外国人と積極的にコミュニケーションを図ることのできる子どもを育成します。

東広島市の2校で10月1日にスタート!

10月1日、東広島市の高美が丘小学校と中黒瀬小学校に、異文化交流体験空間「E-スクエア」が開設されました。「E」は小学校(Elementary school)におけるやさしい(Easy)、楽しい(Enjoyable)、体験(Experience)という意味を持ち、外国人スタッフと日本人コーディネーターが連携して、子どもたちが外国の遊びや文化などに直接触れる機会を提供します。昼休憩や放課後に活動が行われています。



E-スクエア(高美が丘小学校)

いじめは絶対に許さない

～学校と家庭の協力でいじめの解決を～

いじめは「どの子どもにも、どの学校においても起こり得るもの」です。いじめを未然に防止し、早期発見・早期対応するためには、学校、家庭、地域社会および関係機関等の連携が重要です。学校では、教職員が児童生徒からの小さなサインを見逃さないよう一人一人の状況を的確に把握するとともに、いじめを許さない望ましい集団づくりに努めています。家庭においても「いじめのサイン」に注意していただき、積極的に学校や関係機関等にご相談ください。

家庭での「いじめのサイン」に気づいて解決した事例 「娘が学校のことを話さなくなったけど…」

私は、今までずっと仲良かったA子からいじめを受けました。5年生になって、クラスの新しい友達と話すことが多くなってきた頃からA子の態度が変わり、新しく友達になった人のことを悪く言ったり、「他の子とは話さないで」と私に命令したりするようになりました。私が断ると「私たち親友でしょ」と言われ、いつの間にかA子の言いなりになっていました。私は、命令にしたがうのがつらくなって強く断ったりすると、A子は、ますますエスカレートして、私がガラスの女子の悪口を言っていると言いつつ、私はほとんどの女子から無視されるようになりました。

相談する友達がなくなった私は、学校に行きたくなくなりました。でも、いつも私のことを考えてくれるお母さんには心配かけたくなくて、気付かれないようにしていました。本当は苦しくて「死んでしまおうか」とも考えました。口数が少なくなり、ご飯もあまり食べられなくて、考え事ばかりしている私に、お母さんは、やさしく「何かあったの」と声をかけてくれました。私は「何でもない」と言って自分の部屋に行きました。次の日、またお母さんが「なやんでいるならお母さんに相談してね、必ず守るからね、お母さんはいつもあなたの味方よ」と言ってくれました。私はなみだがあふれ出ました。そして、すべてをお母さんに話しました。お母さんは、うなずきながら最後まで聞いてくれ、「お母さんからも先生に相談するけど、あなたも先生に相談してごらん」と言ってくれました。先生に言ったら、もっといじめられるのではないかとやんだけれど、今のままではいよいよだから、思い切って連らノートに全部書くことにしました。先生が「気付いてあげられなくてごめんね」と言ってくれたとき、とてもうれしかったです。その後、先生はA子とみんなに何度も話をしてくれました。学級会でも「いじめ」についてみんなで考えるようにしてくれました。その中で先生が言ってくれた「いじめは絶対に許しません」は、すごく安心できました。そして、A子が泣きながら「ごめんね」と謝ってくれ、みんなも分かってくれて、ふつうに話ができるようになりました。先生に相談して良かったです。私が先生に相談できたのは、いつもやさしく私の話を聞いてくれるお母さんのおかげです。「お母さん、いつも私のことを思ってくれて、なやんでいる私に気付いてくれてありがとう」

家庭で注意したい「いじめのサイン」

- 口数が少なくなり、学校や友だちのことを話さなくなる。
- 食欲不振になり、考え事をしている時間が増える。
- 学習時間が減ったり、宿題や課題をしなくなったりする。
- 学校への通学の時刻になると腹痛等身体の具合が悪くなる。
- 感情の起伏が激しくなり、動物やもの等に八つ当たりする。
- 理由もなく、朝早く家を出たり、帰りが遅くなったりする。
- 衣服に汚れや破れが見られ、手足や顔等にすり傷や打撲の跡がある。
- 家庭から品物、お金がなくなる。あるいは、使途のはっきりしないお金を欲しがると。

このような兆候が見られる場合、いじめの可能性があるので、学校へ相談してください。

↓ チェックリスト全体については、広島県教育委員会ホームページをご覧ください。

<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/29570.pdf>

教育相談窓口にご相談ください

このたび、広島県教育委員会では、子どもたちが一人で悩みを抱え込むことのないよう、国公立学校の全ての児童生徒を対象に「教育相談窓口紹介カード」を配付しました。

